

事前意見書

鳥取環境大学 藤沼 康実

1. 「第9次鳥取市総合計画」の策定に当たり

→ 「第8次鳥取市総合計画」の検証・フォローアップ

当然、「第9次…」策定に当たり、「第8次…」を踏まえていると思いますが、送られてきた資料では、その辺がわかりません。また、どこまで遡ることができるかは分かりませんが、過去の総合計画や市長のマニフェストなどに示されている計画の流れが分かると、より説得力のあるものになるのでは

→ 今後10年間の計画を策定するものであり、「10年後の鳥取市の姿」（ゴール）を想定して、策定すべきでは

→ また、個々の数値目標を掲げることも一案と思いますが、個々の数値目標に加えて、それらの係わり合いや連携・総合化されたものを表現することにより、より実効性・説得力のあるものになるのでは

2. 未定稿の体系図（案）関連

→ それぞれの基本政策が独立してるものではなく、それらが複雑に絡み合ったものと思います。その関係を「体系図」で表現できないですか？

3. 総合計画における個別事項（総合計画の策定に当たって、藤沼が強調したいこと）

→ コンパクトシティ化

人口の減少・高齢化、市の運営資金の制約などを考えると、今後、都市機能の拡大（スプロール化）から都市機能の集中化、つまり「コンパクトシティ」化を目指し、効率的な市行政運営システムを構築する。

：旧市街地の再開発による、都市機能の集中と住環境の整備。

：LTR（ライトレール；軽量軌道輸送）の導入

JR 山陰本線鳥大前駅－因美線郡家駅間を、直接乗り入れ・途中駅（停車場）の増設（約500m間隔）・定時運行（20～30分間隔）を行い、市民が利用しやすい交通システムにする（鳥大・鳥環大などの学生利用も増加するのでは）。

→ 「車いすで暮らせる町」づくり

：公共施設などでは、車いす利用に対して、設備的に配慮されているが、道路には歩道があっても、車いすが安心して利用できる道は少ない、また、物理的に歩道幅が狭かったり、急勾配があったりして利用できない道が多い。これらの道を車いすが利用できるように再整備し、「暮らしにやさしい町」を目指す。

→ 「老人にやさしい町」にする

：老人介護施設の整備の強化・促進し、市住民のみならず、市外・県外の老人を積極的に受け入れる。そのことが雇用の創出にも繋がるのでは？ 現時点では、既存産業の拡大や新たな産業の進出が見込めない状況にあり、「老人にやさしい町」を掲げることによって、市のイメージアップにもなるのでは。

→ 鳥取市内の中山間地域の集落の老齢化対策

- : 山村集落の老齢化が深刻であり、集落機能も維持できなくなりつつある。そのために、旧来からの慣例を打破し、集落機能の統合化を推進する。
- : 市内都市部の地区と、過疎化が進む周辺集落などが、地域間で連携協定を締結し、住民の交流を促進し、新たな人材など導入して、山村集落を活性化する。また、そのことにより、都市部住民にとっては、「田舎」（第二の故郷）ができるのでは。
- : 高齢化が進む地域では、独居老人を地域ごとの集団で生活できるシステムを導入することによって、効率的な介護ができるようになるのでは（多降雪地帯では冬期間だけ、独居老人を「託老所」で集団生活させるシステムがある）。

→ 環境問題（ゴミ対策）

- : ゴミ処理については、鳥取市は優等生とは言えないが、相応に頑張っていると思います。しかし、生活ゴミの大半を占める生ゴミ（塵芥など）の処理については改善が必要では。
- 生ゴミは貴重な有機資源であり、分別収集し、有機資源化（堆肥など）を図ることによって、資源の創出とともに、生活の見直し・環境への配慮などの意識も向上するのでは。